

平成 25 年度「早期からの教育相談・支援体制構築事業」
成果報告書

| | |
|-----|----------|
| 団体名 | 三重県教育委員会 |
|-----|----------|

概 要

1 事業の概要

【三重県における事業内容】

三重県では、特別な教育的支援の必要な幼児等やその保護者が、県内のどの市町に居住していても一貫した支援が受けられるよう、情報引継ぎツールであるパーソナルカルテを作成し、活用を促進した。

また、市町等における基礎的環境整備の一環として、特別支援教育推進の中核的な役割を担う教員を対象とした特別支援教育連続講座（以下「シードプロジェクト」という。）を実施し、専門性の高い人材育成・確保を目指した。

【推進地域における事業内容（鈴鹿市）】

以下の取組を行い、早期からの教育相談・支援体制のシステムの構築を進めた。

(1) 特別支援教育アドバイザーの配置と巡回相談の実施

専門的知識を有する臨床心理士を特別支援教育アドバイザーとして配置し、巡回相談を実施した。

(2) 「すずかっ子支援ファイル」の活用

三重県作成のパーソナルカルテを参考にした、鈴鹿市独自の「すずかっ子支援ファイル」を作成し、活用を推進した。また、保護者の希望、学校や地域の体制整備の状況等を踏まえた総合的な観点に基づく合意形成を図るため、前述のファイルを活用した教育相談の充実につなげていった。

(3) C L Mを活用した早期支援

公立幼稚園全園においてC L M（※）を活用した評価を実施し、P D C Aサイクルに基づく支援の充実を図った。

※C L M（チェック・リスト・イン三重）：保育所・幼稚園に通う気になる子の行動を観察し、個別の指導計画を作成するために、三重県あすなろ学園で開発されたアセスメントツール

※ すずかっ子支援ファイル 表紙



※ 三重県のパーソナルカルテ 表紙

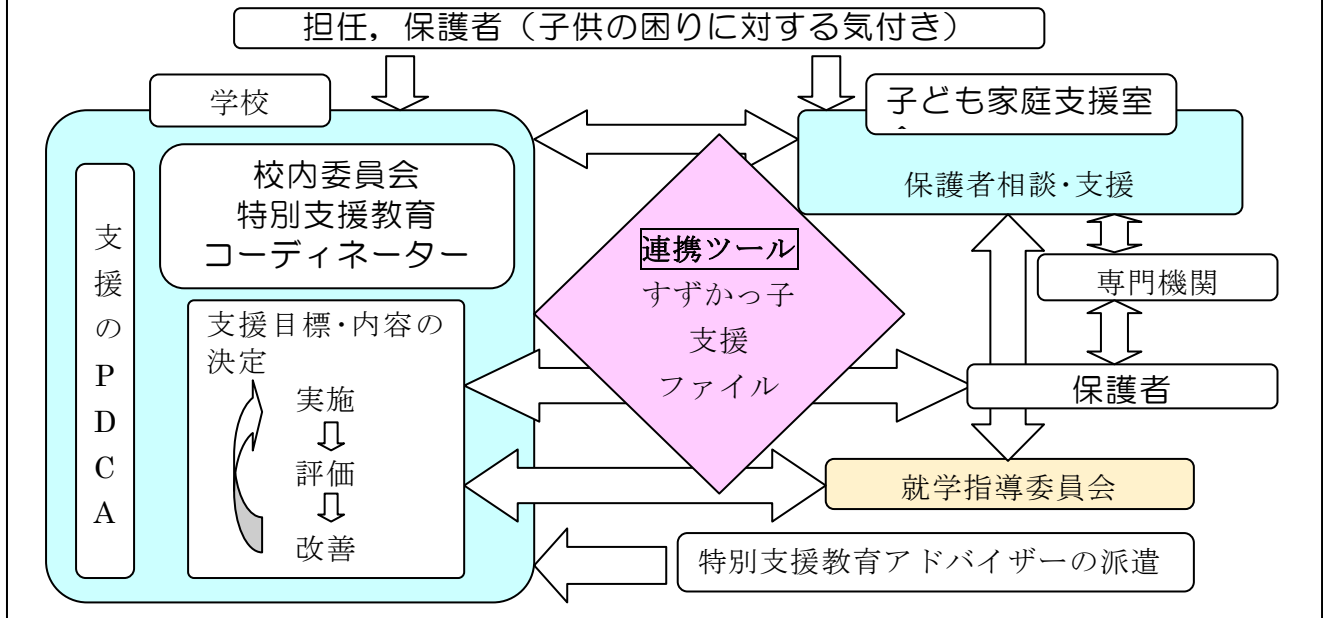


<事業の概念図>

○ 県としての取組

- 特別支援教育連続講座（シードプロジェクト）の実施 8日間 20講座
 - ・教職員の特別支援教育に係る専門性の向上
 - ・発達障がいのある幼児等への適切な指導と必要な支援の充実

○ 鈴鹿市における支援体制



2 事業の成果

【三重県の取組】

特別支援教育推進の中核的な役割を担う教員を対象に、シードプロジェクトを実施した。これらの研修を通じて、発達障がいを含む全ての障がいのある幼児等への適切な指導・支援に向けた体制整備の充実を図った。

【鈴鹿市の取組】

(1) 特別支援教育アドバイザーの配置及び巡回相談の実施

特別支援教育に関する高い専門性を有する臨床心理士を特別支援教育アドバイザーとして配置し、特別な教育的支援を必要とする幼児等、保護者及び教育関係者に対して、適切な指導・支援に係る情報提供及び相談・助言を実施した。また、各学校における適切な支援の在り方について検証し、支援体制の整備を進めた。

(2) 「ずずかっ子支援ファイル」の活用

途切れのない支援を組織的に進めるためのツールとして、「ずずかっ子支援ファイル」の作成及び活用を推進した。このファイルを活用して、乳幼児期を含めた早期からの教育相談や就学相談を行うことにより、本人・保護者への十分な情報提供や、個別の教育的ニーズに応じた支援の充実を図った。また、本人・保

護者と学校及び教育委員会が、合意形成を図りながら就学先を決定することや、就学後の教育相談にも活用した。

(3) C L Mを活用した早期支援

特別支援教育アドバイザーからの指導・助言に加えて、三重県立小児心療センターあすなろ学園の「こどもの発達総合支援室」の支援を受けて、公立幼稚園全園においてC L Mを活用し、P D C Aサイクルに基づく支援の充実に取り組むことで、その時点で一番適切な支援が何かを常に確認しながらサポートした。

【三重県の成果】

シードプロジェクト受講者は、地域における研修会での講師、就学指導委員会での専門的な指導・助言等の役割を担う人材となることを期待されている。平成 25 年度は、市町の小・中学校等から 25 名、県立高等学校から 18 名、特別支援学校から 9 名の計 52 名が参加した。

高等学校の教員にとっては、特別支援教育に係る理解を深めることはもとより、中学校から高等学校への情報の引継ぎ上の課題解決に向けた校内体制の整備の重要性を改めて認識する機会となった。市町の小・中学校等の教員にとっては、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性の向上につなげることができた。

【鈴鹿市の成果】

(1) 学校の取組意識の高揚

鈴鹿市における特別支援教育の推進体制の現状を鑑みると、早期からの教育相談・支援体制構築の重要性に対する教職員の意識、特別支援教育コーディネーターの役割分担、児童生徒の実態把握の仕方などに課題があった。また、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成が進まないといった状況もあった。特に、特別な支援が必要な幼児等への適切な指導・支援に向けた教職員の専門性の向上は喫緊の課題であった。

こうした状況の中、本事業を通じて、「すずかっ子支援ファイル」の作成を徹底し、専門的知識を有する特別支援教育アドバイザーを派遣することにより、早期からの支援の必要性やファイルの有効性の理解を深めることにつながり、特別支援教育の推進に対する教職員の意識の高揚につながった。

(2) 縦・横の連携基盤の構築

「すずかっ子支援ファイル」を連携ツールの一つとして活用することにより、特別な教育的支援を必要とする幼児等に係る関係機関等との横の連携に役立てることができ、また学校間・学年間の縦の連携体制の基盤づくりにも役立てることができた。

(3) C L Mの活用による支援の充実

幼稚園における具体的な支援内容の検討や、指導計画の立案及び検証はスモールステップで行われる。このアセスメントの中でC L Mを活用することにより、P D C Aサイクルに基づく支援の充実につなげていくことができた。C L Mを活用した実践の場に小・中学校の教員が関わることにより、就学後の支援の方向性

のつなぎとして生かすことができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

【三重県】

○教員の専門性の向上の必要性

発達障がいのある幼児等への適切な指導・支援の充実や、就学前から卒業までの一貫した教育支援体制の整備が課題である。多様化する障がい種等にも適切に対応できるよう、また移行期における支援内容のつなぎを確実なものにするべく、教員の意識と専門性の向上に向けた研修体制の充実等を継続し、県全体での支援体制の向上につなげていきたい。特にシードプロジェクトの受講においては、幼稚園からの受講者がなかったため、研修の周知方法も含めた早期支援体制の充実に努めたい。

【鈴鹿市】

(1) インクルーシブ教育の年次計画の必要性

長期的な見通しを踏まえた特別支援教育を推進するため、保護者や関係機関との連携体制の確保、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の活用促進等を今後とも推進してまいりたい。

(2) 校内支援体制の充実

相談内容の多様化等にも対応していけるよう、各学校の管理職や通常の学級の教員への早期支援の重要性に対する意識付け、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上等につなげていけるよう、関係機関とも連携を図りつつ、体制整備の一層の推進を図っていきたい。

※三重県では法令・医療用語等以外は「障がい」の表記を使用している。